

立命館大学

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業
2012年度フォローアップ

立命館大学 学長
川口 清史



目次

G30事業の実績と波及効果

目標と実績、英語コースの開設状況
国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻
留学生の受入れの拡大
留学プログラムの充実と派遣促進

他大学や産業界との連携推進

海外大学・機関とのネットワーク強化
国内大学・機関とのネットワーク強化
海外拠点での活動
産学連携の取組み

国際化展開におけるG30事業

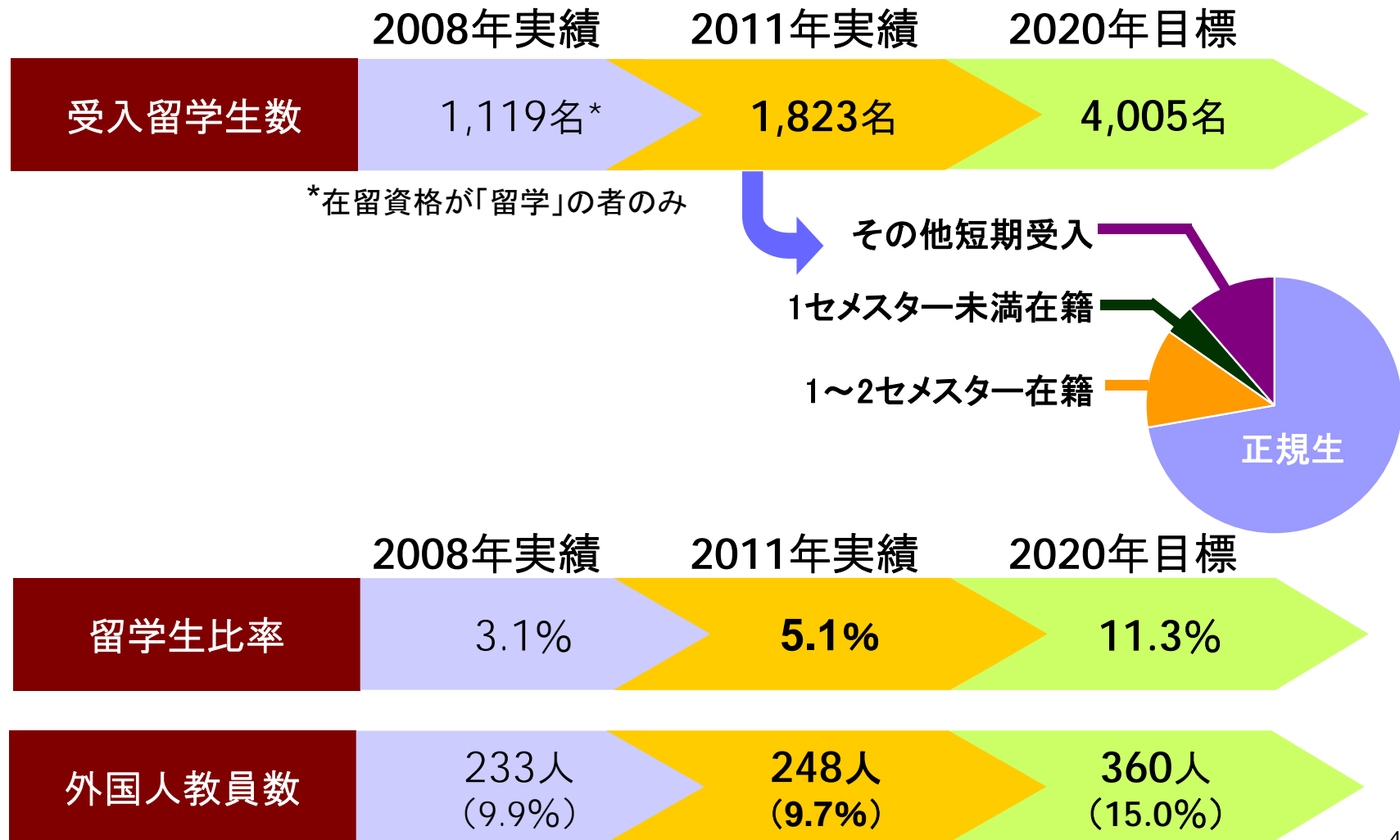
国際化に係る経費
中間評価への対応
立命館大学の国際化の展開
今後の事業展望

G30事業の成果と波及効果

グローバル
人材の育成

- 多文化環境での学びと成長
 - 英語による学位取得コースの開設
 - 短期プログラム等による多様な留学生の受入れ
 - 海外派遣プログラムの充実と留学促進
- 国内外のネットワーク強化
 - 国内外の大学・機関との連携強化
- G30事業を契機とする全学の国際化
 - カリキュラムに根付いた国際化の展開

グローバル30事業における目標と実績



英語コースの開設状況

- 2学部2コース、2研究科3コースの新設構想
- 合計で11コース(2学部2コース、5研究科9コース)

2012年9月末現在

英語コースの名称		学部・研究科名	開設年月
学部	Global Studies Major	国際関係学部	2011年4月
	Community and Regional Policy Studies Major	政策科学部	2013年9月
大学院	Doctoral Program in Technology Management	テクノロジー・マネジメント研究科	2010年9月
	Doctoral Program in Policy Science	政策科学研究科	2011年9月

国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻 ～特色ある学びの仕組み～

- 1学年60名（国内学生30名＋留学生30名）
 - 国内学生と留学生が切磋琢磨して学びを深める
- Course Numbering System
 - 授業科目のレベル・内容を科目コードで体系的に表示し、系統的な履修を可能とする
- 春入学と秋入学を両方実施
 - 各国の学年暦に応じて選択可能

「日本で異文化や国際政治を学びたかった。
秋入学でフランクなく大学生活を始められ
てうれしい」（2012年秋入学者）



国際関係学部グローバル・スタディーズ専攻の在籍者構成 21カ国・地域、125名（国内学生51名、留学生74名）

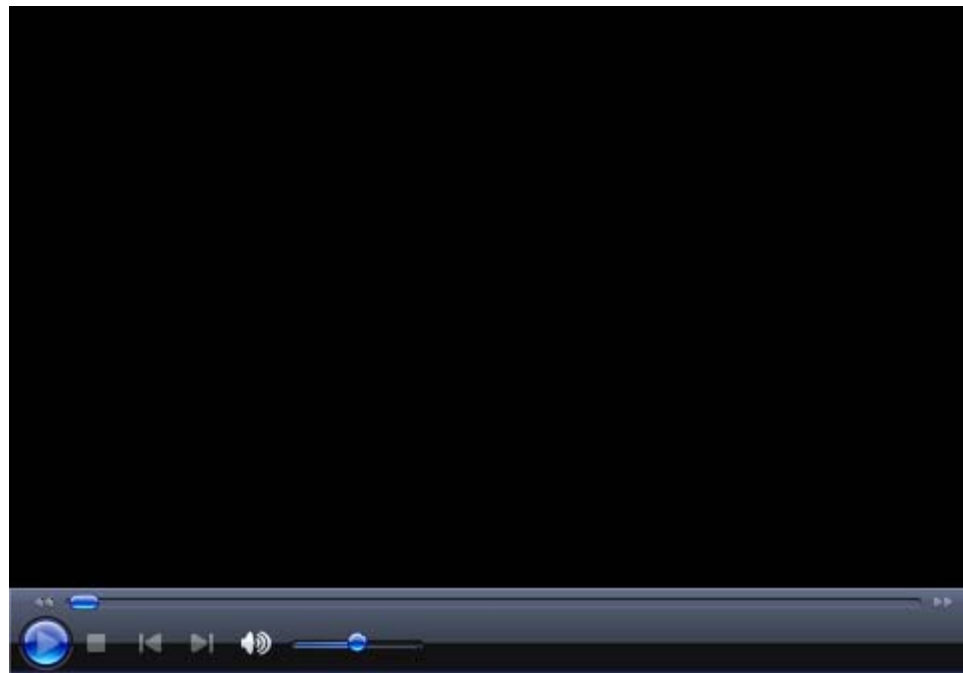


事業の成果～学生の声から見えること①～



- 国際関係学部 グローバル・スタディーズ専攻 2回生
- 梁 敬鎰 (LEUNG KING YAT CHRIS)
- 香港出身

事業の成果～学生の声から見えること②～



- 国際関係学部 グローバル・スタディーズ専攻 2回生
- 鈴木 亮 (RYO SUZUKI)
- 日本出身

ピア・サポート

～日本人学生と留学生との学び合い～

- 上回生グループ(オリター)が、自発的な取り組みとして、学部英語コースで学ぶ留学生を支援
- オリターに対して『異文化理解・ダイバーシティ理解』、『コミュニケーションと傾聴』等の事前研修を実施。学生部、専門教員、事務組織も協力
- オリターは日本人学生と留学生の混合。意見の違いを乗り越え、相互に学びあいながら運営しており、オリター自身への学習効果も高い

日本人学生だけだった時と違い、交流企画にしても、実のある企画にして、説明をしないと参加してくれない。主旨をきちんと説明することの大切さを学びました。(国際関係学部3回生)



留学生の受入れ拡大 ～優秀な留学生の確保～

- 渡日を必要としない入学試験制度
 - 直接面接もしくはスカイプを利用した面接の実施
 - 留学生にとって利便性を高めつつ、厳正な入試を執行
- 優秀な留学生の確保
 - 韓国、中国、インドネシア、モンゴルの著名進学高校との推薦入学協定の締結
 - 留学フェアへの参加、高校・大学訪問の実施
- 日本留学の魅力アピール
 - GoogleやFacebookの活用
 - インドにおける留学フェアの開催

留学生の受入れ拡大 ～1セメスター以上の受入れ～

Study in Kyoto Program (SKP)

- 1～2セメスターの受入れ
 - 日本語・日本文化の集中コース
 - 英語での専門履修を中心とするコース
- 交換留学生以外の個人応募も可能
- 京都ならではの質の高い文化体験
- 国内学生とSKP生の共同学習、交流
 - ➡ 双方の満足度、学習効果高い



留学生の受入れ拡大 ～1セメスター未満での受入れ～

- Ritsumeikan Summer/Winter Japanese Program (RSJP/RWJP)
 - 2～5週間で、各国の学年暦に応じて複数の時期を設定
 - 日本語学習＋日本文化体験
 - 日本人バディ学生との交流も魅力のひとつ
- 2011年度からは協定大学等の要望に応じたカスタムメイドプログラムも実施
 - 2011年6月にはプリンストン大学から12名を受入れ
 - 2013年は5プログラムを実施予定



留学生の受入れ拡大 ～多様な形態での受入れ～

- カリキュラムに組み込んだ多様な受入れ(短期滞在型から正規課程への進学まで)
 - 経済・経営学部と中国・大連外語学院との大学院進学を視野に入れた学生交換プログラム
 - 政策科学部とタイ・タマサート大学とのワークショップ
 - 文学部における日韓中連携プログラム
 - その他、各学部・研究科の専門分野にもとづくプログラムを展開
 - 新たなプログラム開発も進行中
- 国際協力事業における人材育成事業
 - 中国・大学管理運営幹部特別研修
 - インドネシア・公共政策立案研修

留学生の受入れ拡大 ～受入環境の整備～

- びわこ・くさつキャンパスに国際教育寮完成(2012年9月・160室)。衣笠キャンパスでも計画進行中
- 留学生に対するカウンセリング体制も整備



留学生の受入れ拡大 ～教職員の体制強化～

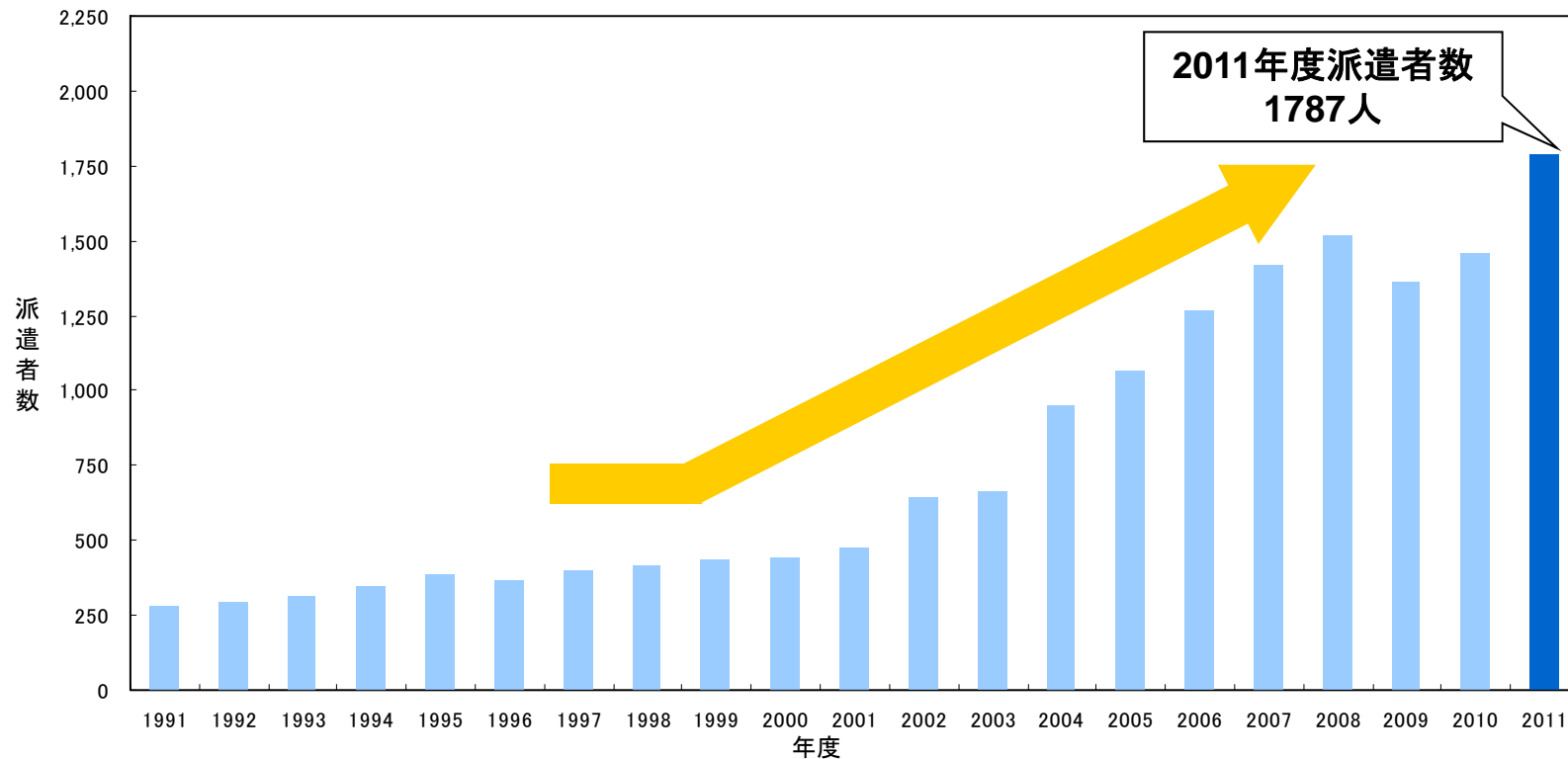
- 英語コース開設に際して、英語で質の高い授業を展開できる能力を重視し、国際的な教育活動実績のある日本人および外国人教員を任用
- 全学の国際化基盤として事務体制も強化
国際部でのスタッフ充実に加え、英語コース設置学部や、新たな海外大学との共同プログラムを開設する学部への専門的力量を有した職員を配置
- さらに、事務職員の国際的な視野・スキルの涵養をはかるため、海外研修を含めたSDも実施

留学プログラムの充実と派遣促進 ～派遣人数実績～

入門的レベルから交換留学・学部共同学位プログラム等の高度なレベルまで、**多彩なプログラムを整備**



学びのフィールドが
海外に展開！



留学プログラムの充実と派遣促進 ～学生ニーズに応じた多様なプログラム～

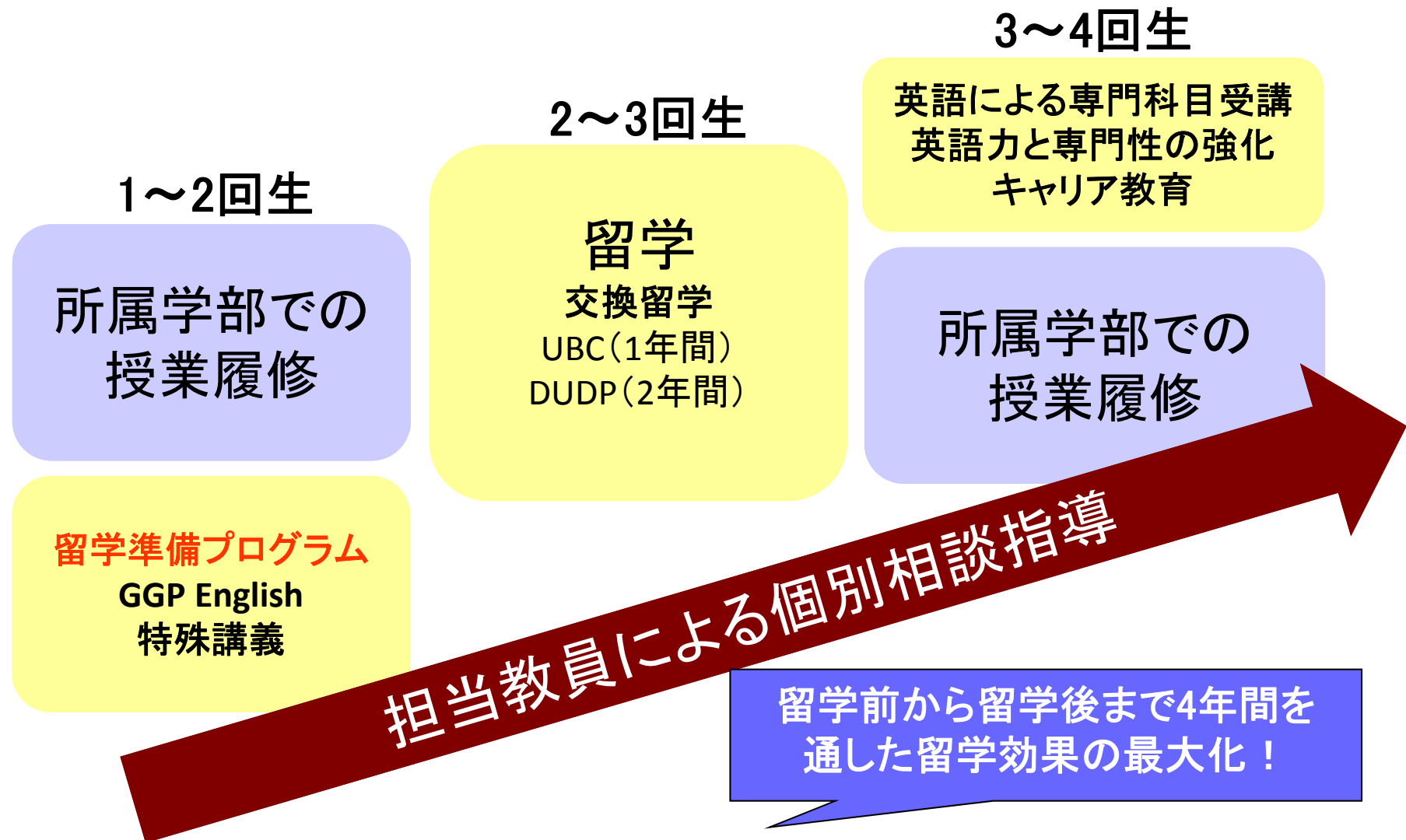
レベル	目的	プログラム例
イニシエーション型	語学力増進と異文化理解	異文化理解セミナー(6ヶ国語、13コース) 立命館・ボストン大学「英語とアメリカ文化プログラム」他
モチベーション向上型	語学力を高めながら、外国語による講義を受ける	立命館・マコーリー大学「日豪関係」 国際インスティテュート海外スタディ(9コース) 立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」他
アドヴァンスト型	外国語による専攻分野の学習	交換留学 共同学位プログラム 他

留学プログラムの充実と派遣促進

～学部教学と結びついた短期派遣プログラム事例～

- 産業社会学部 「スポーツ社会専門特殊講義」
 - サンディエゴ州立大学での講義とアリゾナ州フェニックス近郊でのフィールドトリップを通じて、スポーツとエコツーリズム、スポーツと都市開発、地域社会におけるスポーツ産業の役割等、全専攻に関わる内容を学術的かつ体験的に学ぶプログラム
- 法学部 「法政海外フィールドスタディ」
- 経営学部 「Business Study Abroad I～IV」
- 映像学部 「近代ハリウッド映画におけるCG発展の歴史」
- 教養教育 「国際平和交流セミナー(中国)／(韓国)」 他

留学プログラムの充実と派遣促進 ～GGP(グローバル・ゲートウェイプログラム)～



留学プログラムの充実と派遣促進 ～学生の成長、学生から学生へ～

Student's Voice

最初は授業内容が分かりませんでした。なんとか喰らいつきたいと思って、オフィスアワーを毎回利用。本当に必死で質問しましたね。熱心な学生には分かりやすい言葉で説明してくれたので、少しずつ理解できるようになりました。

シェアハウスでは9カ国13人の留学生と生活。海外の学生の生の声を聞くことで視野が広がりました。例えば、海外の政治問題についてその国の学生がどのような考えを持っているかを生で聞く機会が得られたことはとても貴重な体験でした。

文学部4回生 米国・アルフレッド大学交換留学

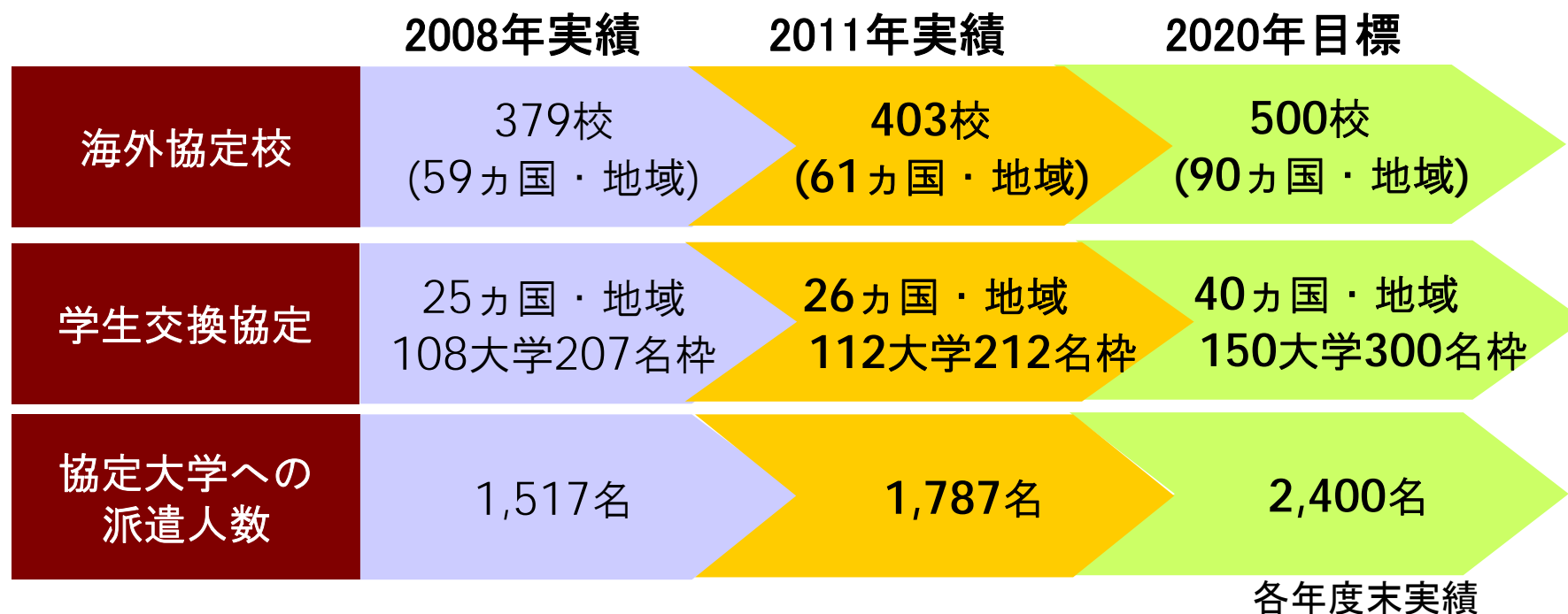


留学アドバイザー制度

留学を経験した学生が、留学を考えている学生に現地情報などをアドバイス。同じ学生だからこそ、ちょっとした悩みや疑問も気軽に相談できる場となっている。

留学アドバイザー自身にとっても、後輩学生の支援とともに、自分が留学で学んだものを振り返る機会となっている。

海外大学・機関とのネットワーク強化



- 国際的な大学間ネットワークでの活動
 - INU (International Network of Universities)
 - 国際関係専門大学院連合 (APSIA: Association of Professional School of International Affairs)

海外大学・機関とのネットワーク強化 ～共同教育プログラムの展開～



- 学部共同学位プログラム (DUDP)
2012年度新規締結 カナダ:アルバータ大学
米国:アメリカン大学(1994年度から実施)
など
- 共同修士学位プログラム (DMDP)
米国:アメリカン大学
英国:ランカスター大学
韓国:高麗大学、中央大学 など

アメリカン大学・立命館大学の2つの学位を取得した卒業生数
累計 262名
(2012年9月現在)

国内大学・機関とのネットワーク強化①

- 大学間ネットワークの強化と他大学への裨益
 - 京都大学、大阪大学、同志社大学と連絡会を形成
 - 4大学共催のFD、SD活動を展開
- 大学コンソーシアム京都へ英語科目提供
 - 他大学・一般社会人の学習機会として2012年度は以下の3科目を開放
 - Introduction to the United Nations
 - Introduction to Peace Studies
 - Special Lecture (Area Studies Course)

国内大学・機関とのネットワーク強化②

- 各種シンポジウムやFD・SD企画を実施
- JAFSAとの共催を含め、他大学関係者・一般へ開放
- 2012年度前期には以下の取組みを実施

「学習成果分析－『学び』の可視化を目指して－（2012年5月21日）」

- Darla Deardorff氏（米国・Duke大学）による国際教育における学生の学習成果の評価をテーマとする基調講演
- パネルディスカッションでは、米国、豪州の専門家および立命館大学と立命館アジア太平洋大学（APU）の教員による、e-ポートフォリオなどを利用した学びの可視化の実践例を紹介。
- 関東・中国地方など遠方からの参加者も含め、約110名が参加。

海外拠点での活動 ～海外拠点設置状況～



海外拠点での活動 ～インドオフィス(ニューデリー)①～

- 2010年11月に海外共同利用事務所として開所
国際交流基金日本文化センターと同一ビルに設置
日本語学習者に対して日本留学情報提供等の
相乗効果を挙げている
- 日本留学のワンストップセンター
としての機能
 - 日本の各大学の資料を設置
 - TV会議システムを利用した
留学説明会や面接の実施等



海外拠点での活動 ～インドオフィス(ニューデリー)②～

- 2011年度に引き続き、2012年8月30日に日本留学説明会をニューデリーにて開催
日本留学の意義に加え、日本文化を紹介
- G30採択大学など11大学の他、在インド日本国大使館、京都府もブース出展。8大学が資料参加
- インドの高校生、大学生等、約570名参加

参加大学の

「留学を真剣に考えている者が多かった」、「予想を超えた来場者数で、充実した説明ができた」等



産学連携の取組み ～G30産学連携フォーラムへの参画～

- 2010年8月
第1回G30産学連携フォーラム
立ち上げに東京大学とともに参画
- 2011年8月 第2回フォーラム
「留学生の雇用について」
西日本分科会の幹事校を務める
- 2012年9月 第3回フォーラム



**グローバル人材育成に関する
産学共同の議論の場として定着**

産学連携の取組み ～グローバル人材養成プログラム①～

- 国内学生と留学生が、グループでの学び合いを通じて、国内外を問わずグローバルに活躍できる人材を養成するプログラム

2012年度受講生 国内学生：32名、留学生：24名



- 産業界との連携促進
- 企業が抱える課題に対して解決策を提案するPBL学習プログラム
- グローバル展開をしている企業でのインターンシップ など

産学連携の取組み ～グローバル人材養成プログラム②～

目指す能力・資質 **グローバル人材**



産学連携の取組み ～グローバル人材養成プログラム③～

経営者よりも響いた学生の提言！ マンネリ化する 関西財界セミナーに新風

2012.2.19 07:00 (1/2ページ) [ビジネスの裏側]

関西の政財界人らが一堂に会する恒例の「関西財界セミナー」がこのほど、京都市内で開かれた。今回で50回目を数え、歴史を重ねてきた財セも昨今は“マンネリ化”が指摘され、関西の地盤沈下の影響か、開催の意味さえ問う声も少なくない。そんな中、今回はセミナー史上初となる意外な試みが行われた。

「ASEAN圏の国家はいつか淘汰(とうた)されると思う。ぜひ、日本を広く見てほしい!」。企業のグローバル競争と人材戦略について議論を交わした分科会会場に、立命館大大学院国際関係研究科の趙俊秀(ジョ・ジュンス)さんの声が響き渡った。

関西経済や成長戦略などテーマごとに6つの分科会に分かれて、議論が交わされた財セ。この分科会では外国人留学生の採用の実態とその課題について、企業側や大学教授らが意見を繰り広げた。その後、セミナーに初めての参加となった趙さんから外国人留学生3人と日本の大学生2人が企業の採用についてそれぞれの思いを語った。

グローバル化が重要と叫ばれながらも、外国人留学生に対する企業の採用数は少ないのが現実。「留学生は母国と関係を切っている。環境が変わることにアレルギーはない」。韓国から来日して5年という趙さんはこう続けた。

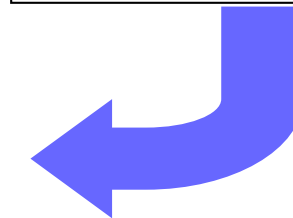
中国・上海から神戸大経営学研究所に留学している叶承啓(ヨウ・ショウケイ)さんも、流暢(りゅうちょう)な日本語で「優秀な日本人だけでなく、多国籍の人材を採用することは今の流れ。企業と留学生の間にもっと接点を作ってほしい」と呼びかけた。



関西財界セミナーに参加した大学生たち＝2月9日、京都市

関西財界セミナーにて
発言をする受講生

新たな風を財界へ吹き
込んだと報じられた。

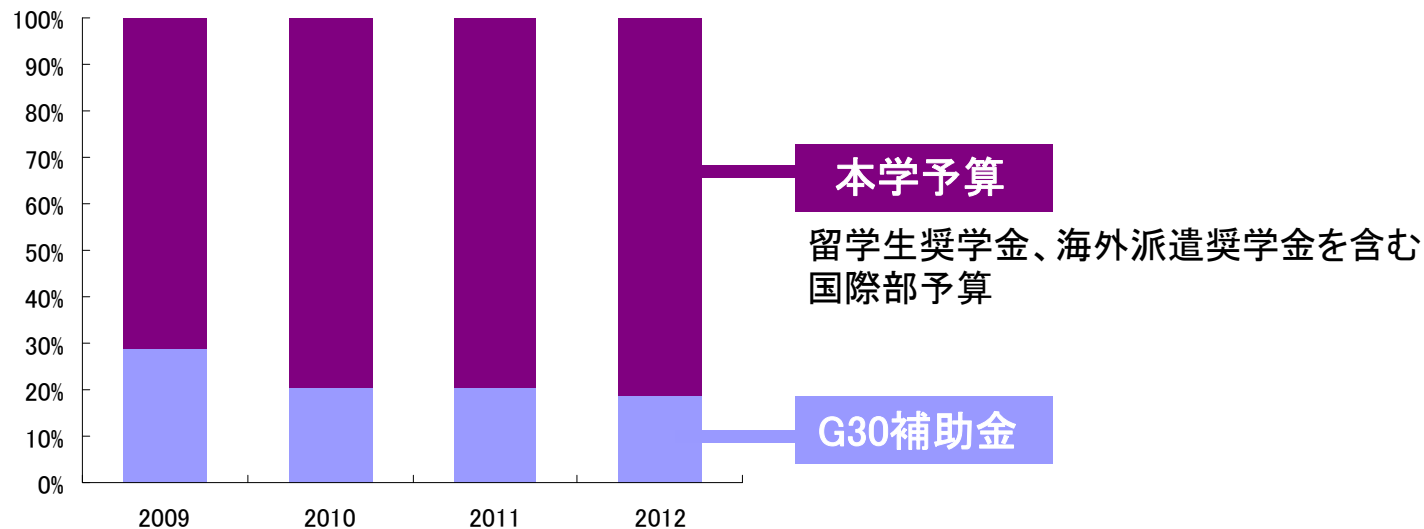


2012年2月19日付 産経新聞ウェブサイトより抜粋

国際化に係る経費

- 補助金終了後における継続的な国際化の推進に向け、G30補助金だけに依存することなく、大学負担によって自立的に推進している。

【国際化に係る本学予算とG30補助金との比率】



中間評価への対応


● 中間評価 A評価

- 留学生受入れ環境整備、海外事務所の活動も活発
- 他大学との連携等も精力的に取り組んでいるとの評価
- 留学生受入れ人数、外国人教員の採用数も目標値を上回る

指摘事項への対応としては

- 学生ヒアリングを実施し、学生の声を反映した取組みを実施
 - 日本語学習への負担軽減(必修12単位→6単位)
 - 留学生と国内学生の学び合いの機会を充実 など
- 国際教育寮等、生活環境の整備も推進
- 2015年予定の大阪・茨木キャンパスの設置という大きな枠組みの中で、学部・研究科のグローバル化という目標の達成を目指す

立命館大学における国際化の展開 ～国際化に関わる歩み～

- 
- 1985** 国際センター設置
 - 1986** 留学生特別入試を実施し、正規留学生の受入開始
海外短期派遣プログラム『海外セミナー(現:異文化理解セミナー)』開始
 - 1987** 学生交換留学(派遣)開始
 - 1988** 国際関係学部開設
 - 1991** 『立命館・UBCジョイント・プログラム』を開始。100名を長期(8ヶ月)派遣
 - 1994** アメリカン大学との学部共同学位プログラム開始
 - 2000** 学部横断プログラム
『国際インスティテュート』開設
 - 2001** 理工学研究科に初めての英語コース(国際産業工学特別コース)を設置
 - 2009** グローバル30採択
 - 2011** 国際関係学部グローバルスタディーズ専攻開設

2000年 同一法人内に立命館
アジア太平洋大学(APU)開学

立命館大学における国際化の展開 ～G30事業を契機とした全学の国際化～

- G30事業を契機として、全学の国際化を推進



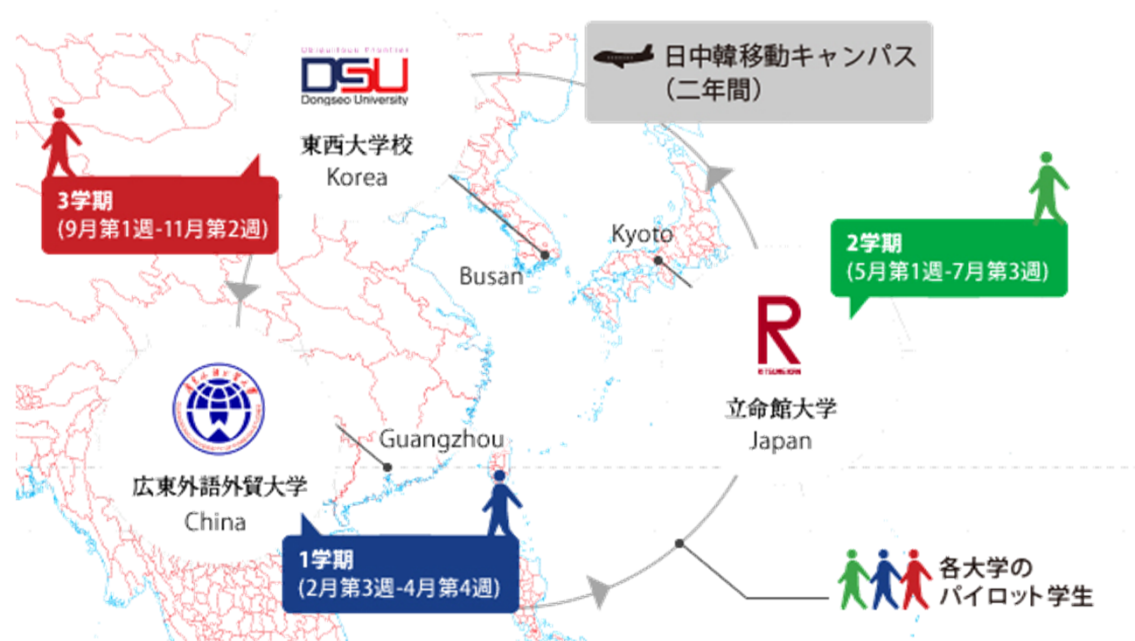
- 全学横断的なプログラム開発から
各学部・研究科のカリキュラムに内在した国際化へ
- 学部・研究科の特徴を生かした独自取組への発展
 - 1) 文学部 キャンパスアジア・プログラム (世界展開力事業採択)
 - 2) 情報理工学部 中国の大連理工大学と共同で「国際情報ソフトウェア学部」を大連理工大学内に設置
 - 3) 情報理工学部・情報理工学研究科 「グローバルIT人材育成リーディングプログラム」(グローバル人材育成推進事業採択)

全学のさらなる国際化展開①

～文学部・キャンパスアジア・プログラム～

(文部科学省「平成23年度世界展開力強化事業」採択)

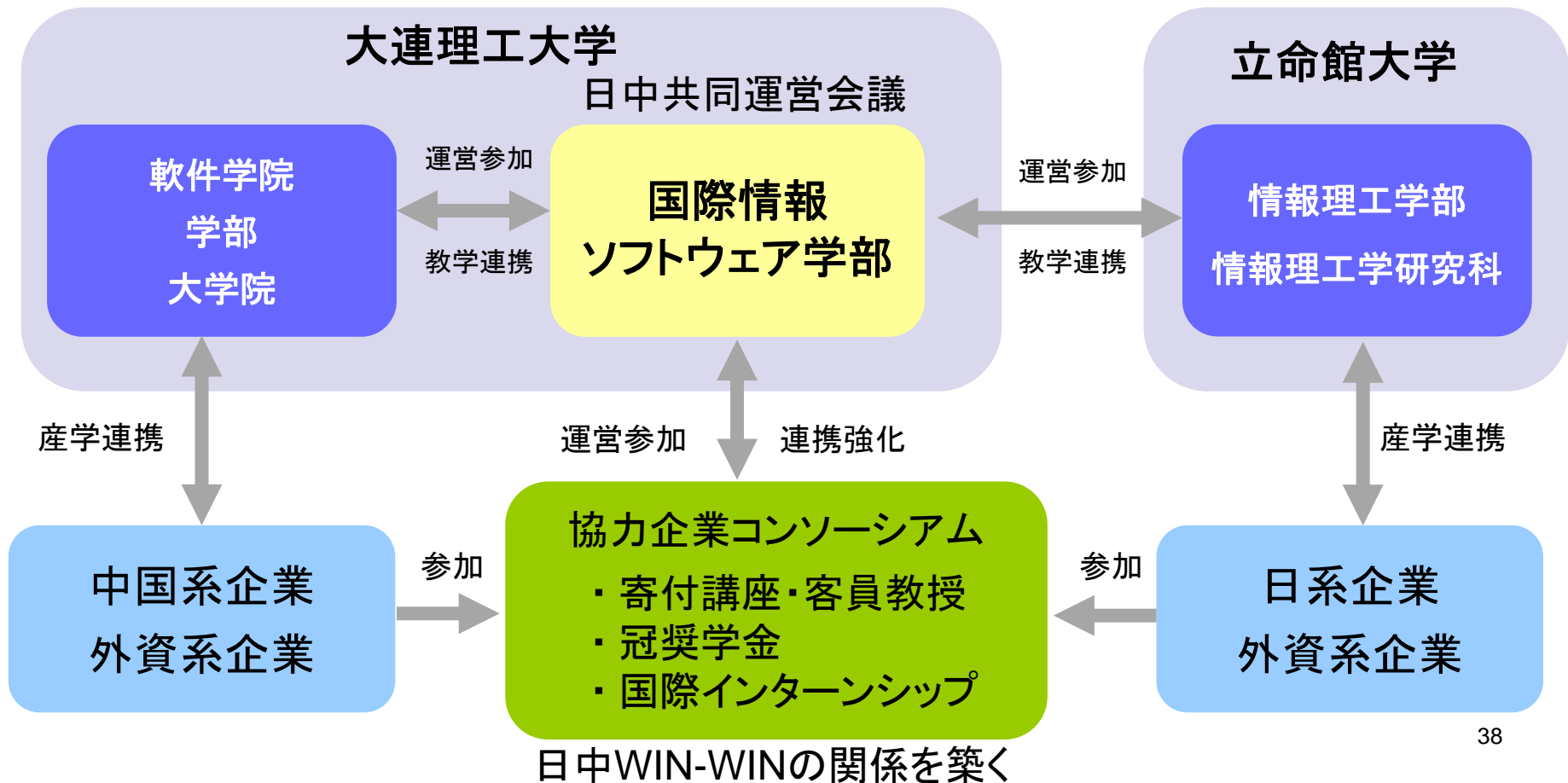
- 立命館大学、東西大学校(韓国)、広東外語外貿大学(中国)の三大学で共同運営。
- 3大学の学生と一緒に日本、中国、韓国の3キャンパスを移動しながら語学と専門科目を学ぶ。
- 2年にわたって、寮での共同生活、討論、文化摩擦、共同作業などを通じて、国際的なコミュニケーション能力を身につける。



全学のさらなる国際化展開②

～中国の大学との共同での学部設置～

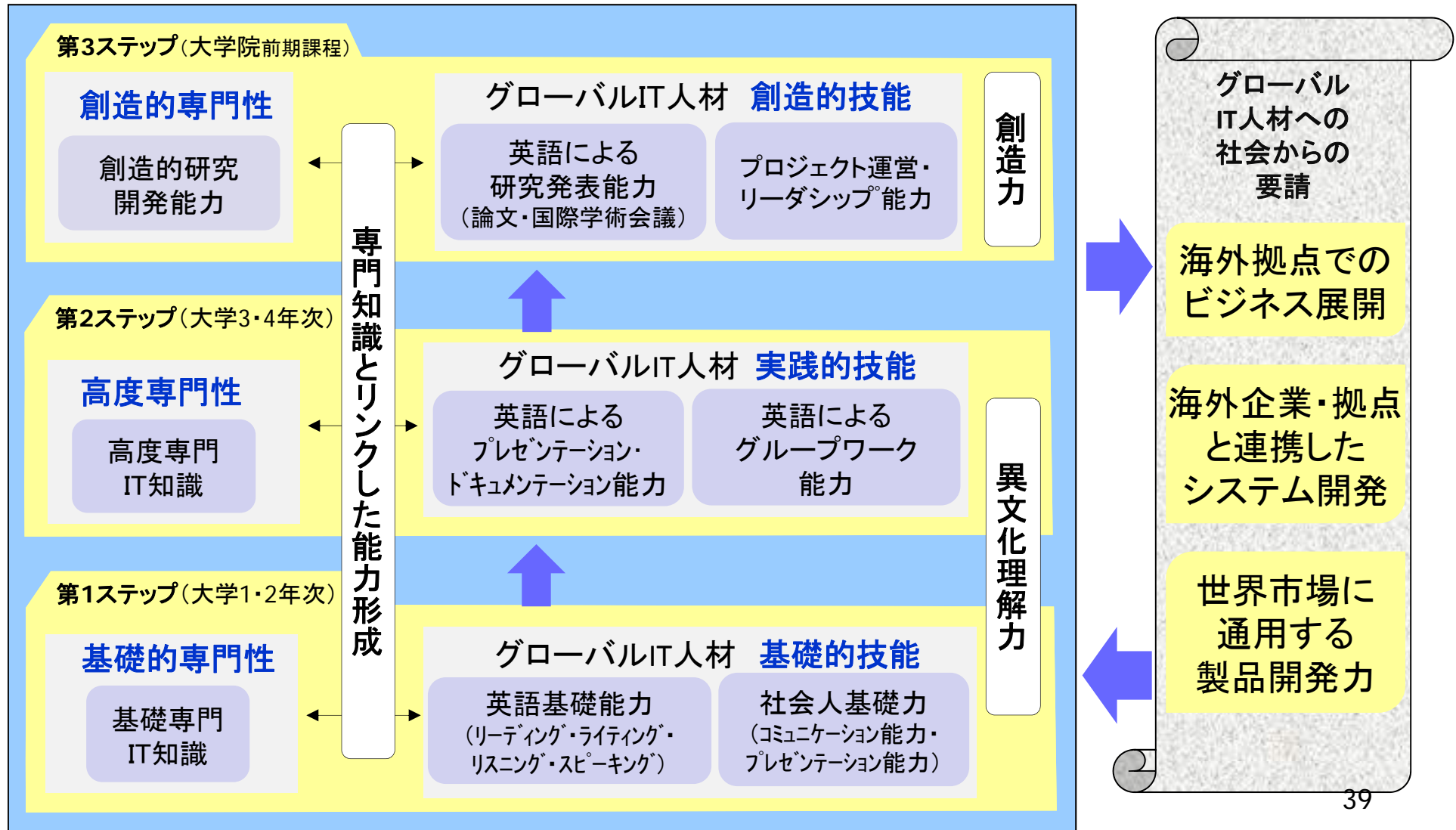
- 日中共同で設置する初の国際的なIT学部
- IT分野におけるグローバル人材の育成を目指す



全学のさらなる国際化展開③

～グローバルIT人材育成リーディングプログラム～

(文部科学省「平成24年度グローバル人材育成推進事業・特色型」採択)



今後の事業展望

- 目標の達成に向けた着実な取り組み
 - 多様な留学生受入の促進と環境整備
 - 渡日を必要としない入試方法の確立
 - 各キャンパスにおける国際教育寮の整備
 - オンキャンパスでの共同学習・交流の促進
- 2015年大阪府茨木市における新キャンパスの開設と各キャンパスの特色に応じた国際化の展開
 - 新キャンパスのコンセプトは「アジアのゲートウェイ」
 - 多様な国際連携の促進
 - 既存キャンパスでも、国際化をカリキュラムに埋め込んだ新たな教学展開

R2020

Creating a Future Beyond Borders

自 分 を 超 え る 、
未 来 を つ く る 。